



あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

モユク★カムイ

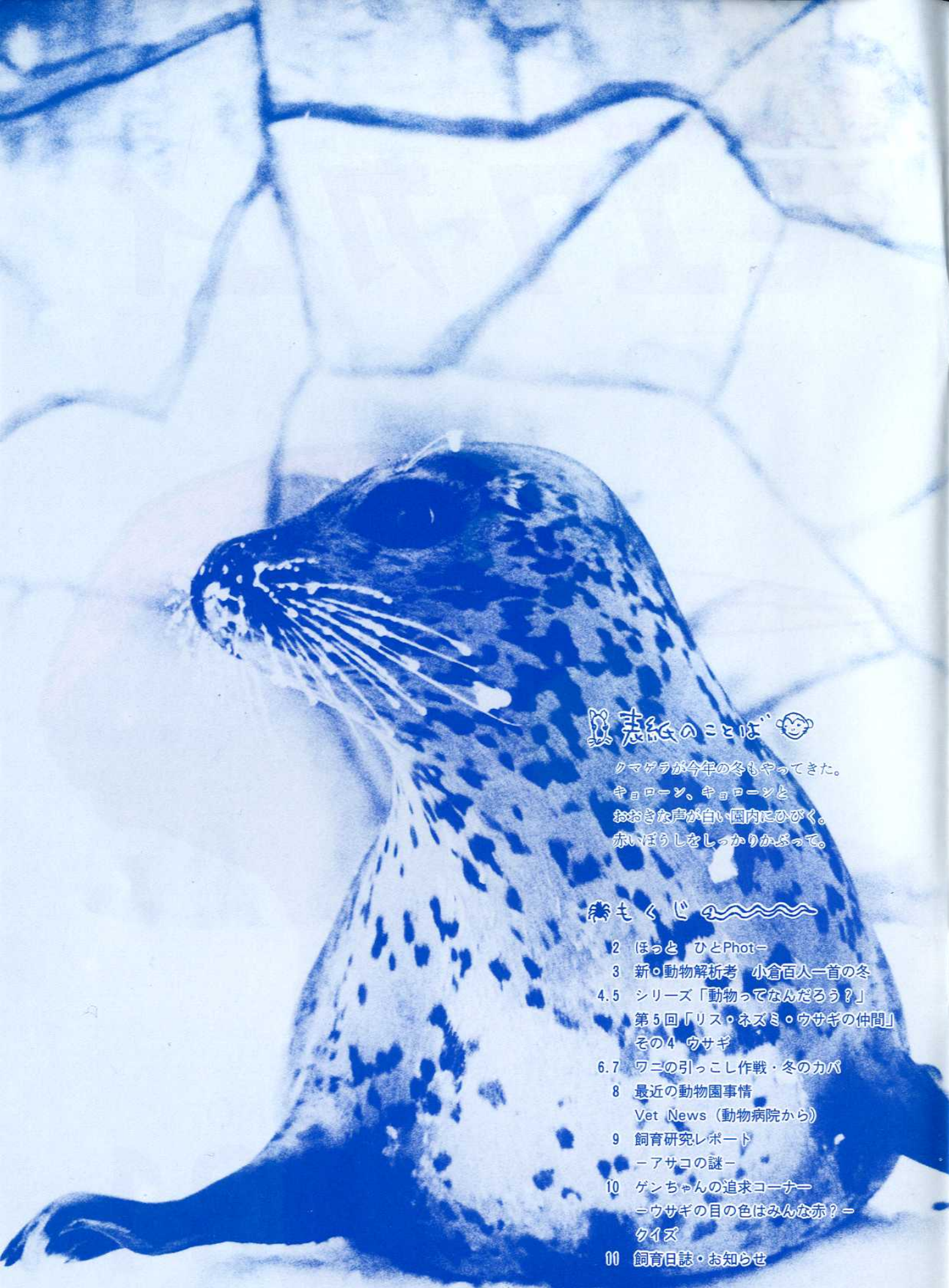
☆モユク・カムイとはアイヌ語で
「エゾタヌキ」のことです。



NO.

31

FEB 1993



表紙のこぼれ

クマゲラが今年の冬もやってきた。
 キョローン、キョローンと
 おおきな声が白い園内にひびく。
 赤いぼうしをしっかりとかぶって。

目次

- 2 ほっとひとPhot-
- 3 新・動物解析考 小倉百人一首の冬
- 4.5 シリーズ「動物ってなんだろう？」
 第5回「リス・ネズミ・ウサギの仲間」
 その4 ウサギ
- 6.7 ワニの引っこし作戦・冬のカバ
- 8 最近の動物園事情
 Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート
 -アサコの謎-
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー
 -ウサギの目の色はみんな赤?-
 クイズ
- 00 飼育日誌・お知らせ



新・どうぶつ解析考

百人一首

冬の歌は2首

かささぎの 渡せる橋に おく霜の
 白きを見れば 夜ぞふけにける 中納言家持

中国の伝説では、七夕の夜、たくさんのカササギがあらわれ
 天の川に橋を渡して、織女を牽牛に会わせるらしい
 七夕と冬の霜では、全く季節が逆だなあと思っていたが
 宮中の御殿に渡した階段のことを

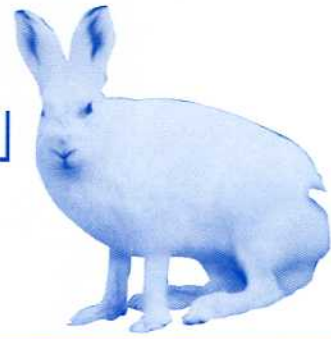
‘かささぎの渡せる橋’というのだそうだ
 まことに風流・典雅な世界である

淡路島 かよふ千鳥の なく声に
 幾夜寝ざめぬ 須磨の関守 源 兼昌

‘千鳥’とはコチドリのことだと本にでていた
 冬に群れとなって淡路島から飛んでくる千鳥を
 源氏物語を読んで感動した作者が、想像して詠んだ歌らしい
 本当にコチドリなのだろうか
 須磨のあたりで冬に群れをなして見られる千鳥はシロチドリでは？
 またしても不風流なことを考えてしまう私には
 チドリの声が、妻や友を恋慕って鳴いているようには聞こえない

第5回 「リス・ネズミ・ウサギの仲間」

みんなの大好きな「ウサギ」は
ほんとうはどんな動物なのだろう？



その4

ウサギ



●ウサギ目

うさぎの仲間はヒトの手によって移入されたオーストラリア大陸をふくめて、地球上のほぼ全域に広く分布している。その生活環境も様々で、雪におおわれる極地から半砂漠、草原、ステップ、熱帯林、山岳地帯、湿地などにうまく適応している。分類的には大きくナキウサギ科とウサギ科とに分けられ、現在の地球上には58種類が生息している。

●日本のノウサギ

日本には北海道にすむユキウサギ、ナキウサギ、本州と四国・九州にすむノウサギ、奄美大島・徳之島にすむ特別天然記念物アマミノクロウサギの4種類の野生ウサギが生息している。そのうちいわゆる「野兔」と呼ばれているのは、エゾユキウサギとノウサギである。ユキウサギはヨーロッパから北部アジアにかけて広く分布する種で、日本では北海道に生息しエゾユキウサギという亜種名がついている。

ノウサギには図のようにトウホクノウサギ、サドノウサギ、オキノウサギ、キュウシュウノウサギの4つの亜種に分けられている。

●分類

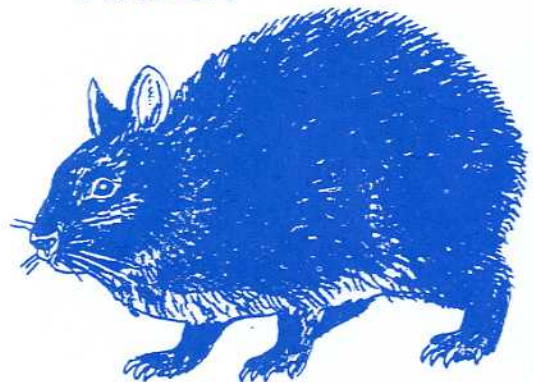
ウサギ目	ナキウサギ科 ウサギ科	ナキウサギ属 アマミノクロウサギ属 ノウサギ属	エゾナキウサギ アマミノクロウサギ エゾユキウサギ トウホクノウサギ キュウシュウノウサギ サドノウサギ オキノウサギ
------	----------------	-------------------------------	---

●飼い兔 (カイウサギ)

ペットとして私たちになじみの深い「耳の長いうさぎちゃん」はヨーロッパ原産のアノウサギをローマ時代に北アフリカやイタリアで家畜化されたもので、「カイウサギ」と呼ばれる。カイウサギはペットとしてばかりでなく、毛や肉を利用するために品種改良されたものが現在約50品種以上もあり、家畜として世界中で飼育されている。

ウサギを英語でいうと「Rabbit(ラビット)」をすぐに思い浮かべるが、Rabbitはアノウサギをさす言葉で、ユキウサギやノウサギに対しては「Hare(ヘアー)」を使う。英語ばかりでなく、アノウサギの仲間とノウサギの仲間とでは、体のつくり(形態)や、生活(生態)もお互いに随分違っている。

日本でも飼われていたものが逃げだして野生化したものが伊豆諸島などで見つかっている。人為的に持ち込まれた動物が、在来の動物相に多大な悪影響を与えることが予想されるため、動物を飼育する側は責任を持って動物の管理をしなければならない。

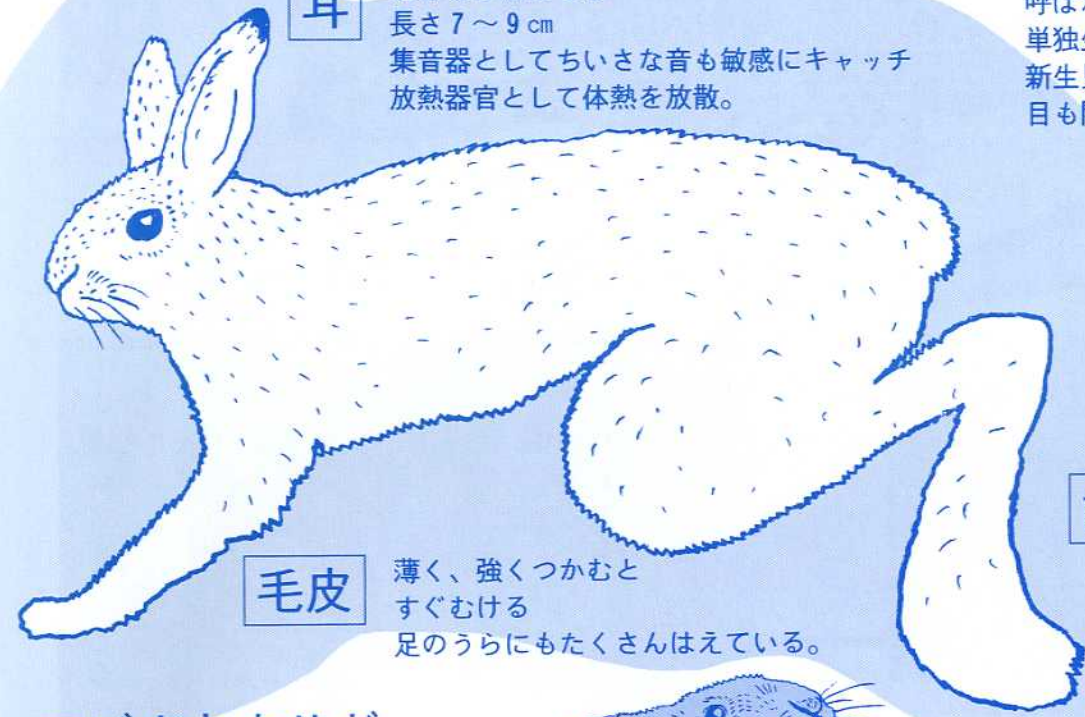


エゾユキウサギ

Lepus timidus ainu

耳

走るときはたてる
長さ7~9cm
集音器として小さな音も敏感にキャッチ
放熱器官として体熱を放散。



毛皮

薄く、強くつかむと
すぐむける
足のうらにもたくさんはえている。

生活

巣穴はつくらず「フォーム」と呼ばれるくぼみで休息する
単独生活者
新生児は毛が生えそらい目も開いている。



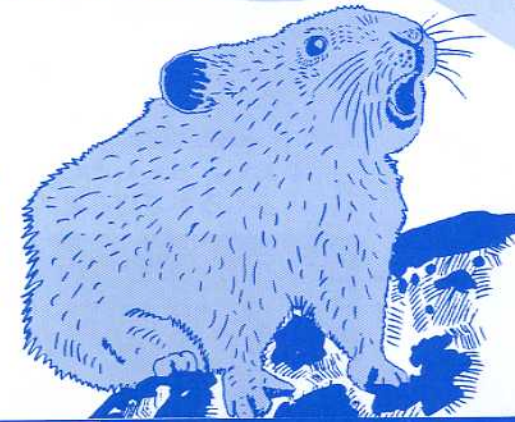
歯

ネズミに似て伸び続ける門歯を持つが、上あごの門歯が二重になっている。

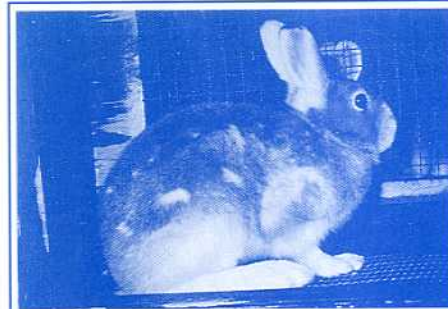
エゾナキウサギ

Ochotona alpina yesoensis

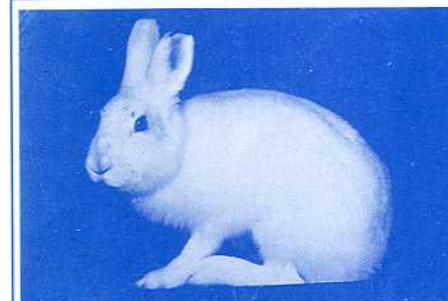
北海道の高山帯のガレ場にすむ小さなウサギ。「ピキョッ」とかん高い声でよく鳴き、氷河時代の生きた化石として有名である。



ナキウサギ耳は1.3~1.6cmほどでとても短かく丸型
尾はほとんど目立たない
体重 120~170グラム
体長 15~17cm
冬眠はしない



春(3月~5月)
白い冬毛が抜けて、茶色の夏毛に換わっていきます。

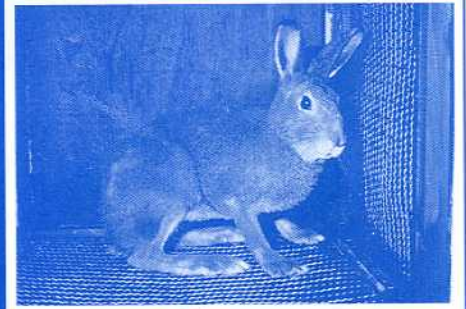


冬(12月~2月)
真っ白い冬毛になりました。耳の先端だけが黒く残ります。

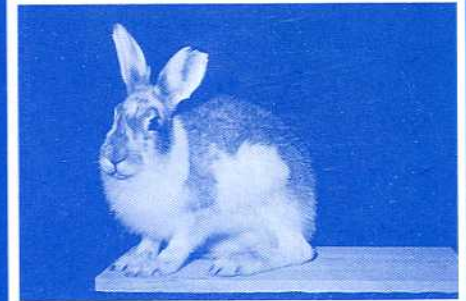
毛の色が変わる

保護色の例として、ノウサギの毛がわりはよく知られています。冬は雪景色の中で真っ白な毛色をしていたものが、夏にはこげ茶色になります。じっとしていれば見つけることはむずかしい動物です。

この毛がわりは日照時間の変化で起きることが解っています。春、日照時間が長くなってくると白い毛が抜け落ち、こげ茶色の毛になります。秋になると日が短くなるのでこげ茶色の毛が長く白くなります。



夏(6月~9月)
茶褐色の夏毛におおわれています。



秋(10月~11月)
茶色だった夏毛が、体の末端部から脱色されて白くなっていきます。



① なんだかへんにしずかだないじょうぶか？



② おい、ちゃんとしっぽもってくれよ！ ふくろかぶせるぞ！



③ よし、やったぜ 見えなくすればだいじょうぶ



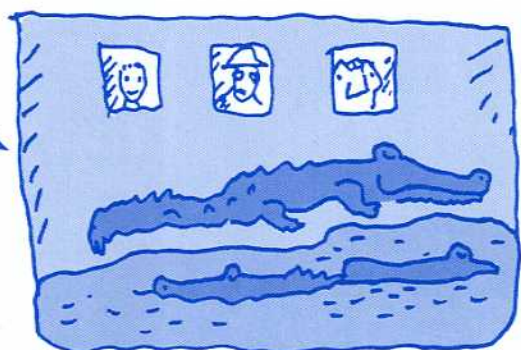
④ よっこいしょ よっこいしょ おもいね



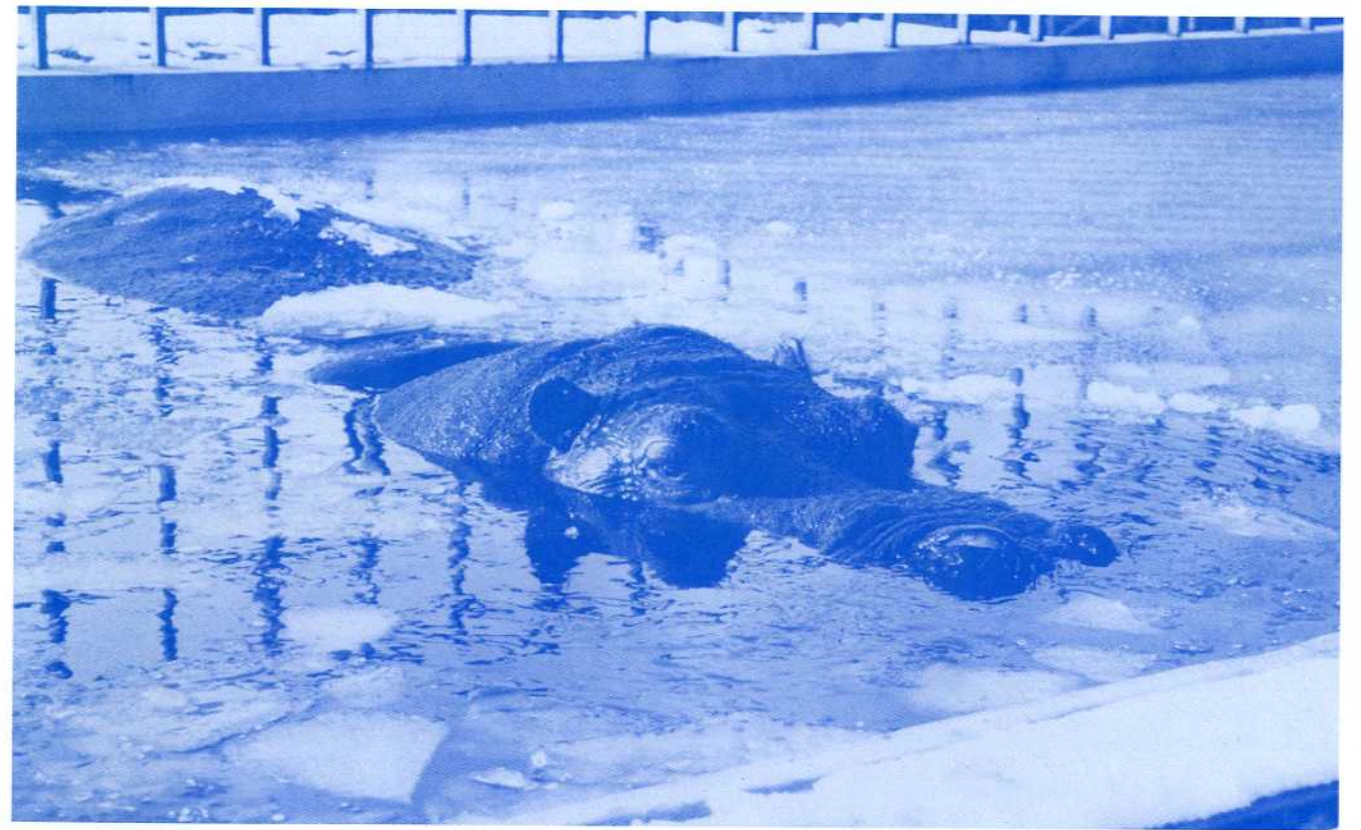
⑤ トラックにドサッ！



⑥ 2ひきならんだワニ ねてるの？



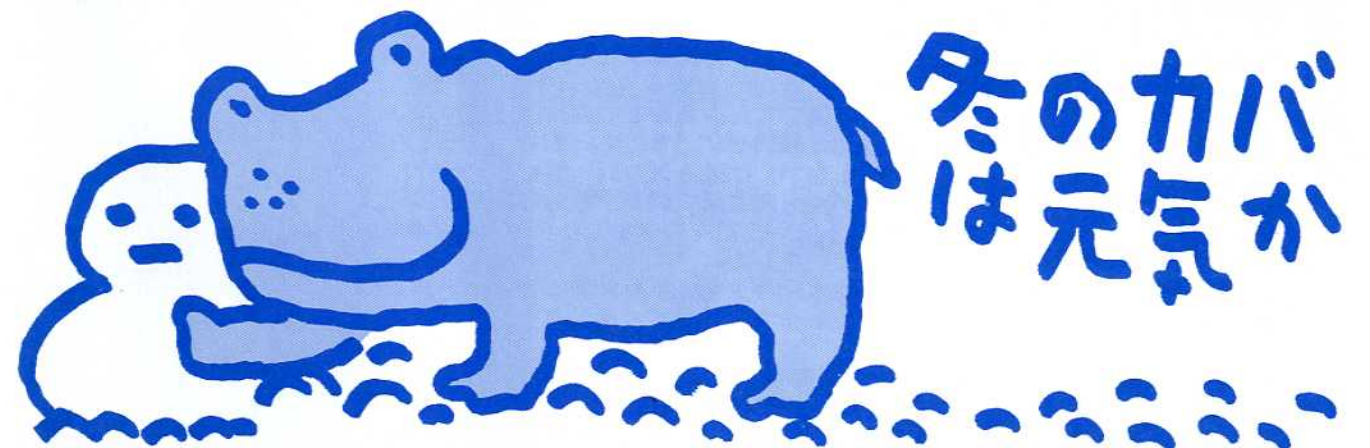
⑦ そして無事新居へ！ ああよかった。



▲ 冬の日、外のプールは氷だらけ えいっ、思いきって入っちゃえ！ うーんいい気分じゃ（やせがまん、やせがまん）でも、にどと入るのはやめよう



▶ おおきくなったでしょ 赤ちゃんカバの初めての雪 ▶





動物園事情 - 飼育係? -

動物園で動物の世話をしている人を「飼育係」と呼んでいる。係とは集団の名称なので、人を指す場合は「飼育員」とか「飼育のおじさん（なぜか絶対にお兄さんではない）」と呼ばれている。

飼育とは読んで字のごとく“飼いで育てる”ことで、生きた動物を扱う仕事としてはびったりとした言葉のようだ。貴重な野生動物を預かっているのだから、その飼養と繁殖に努力することは当然なので、古くから飼育係と呼ばれていることに、間違いだというつもりはない。

しかし、動物園の「飼育」にはちょっと小さすぎるような気がする。動物を飼育する目的が、ただ飼いで育てるだけではなく、健康な動物たちの暮らしを多くの方に観ていただくことにあるのだから、飼育係の仕事は、どのようにして動物を観ていただくかという視点からなされなければならない。親が子を育てるところばかりでなく、動物がのんびりと日向ぼっこを楽しんでいるところも、観察者に満足して観ていただけるような動物園の環境を作ってやることも大きな仕事だ。また、動物をよく知ってもらうことも重要な仕事なので、ここでは普及活動の中心となって動物の側からの代弁者にならなければならない。

そう考えると、「飼育係」という言葉からくるイメージよりは「飼育展示係」とか「動物係」とかもっと広いイメージの名称がふさわしいと思うのだが、いかがであろうか。

●種を知る

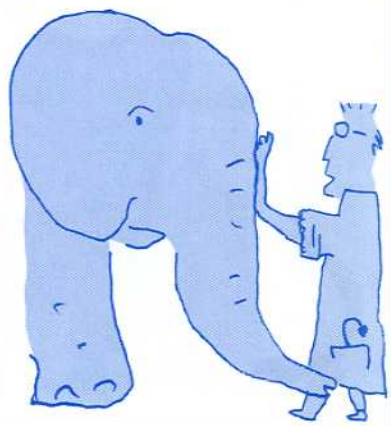
ライオンとトラ、マルミミゾウとアジアゾウ、ダチョウとエミュー、皆さんはこれらの動物を見るとき、これらの動物がなぜいろいろな姿、形をしているのかまで、思いが及ばないと思います。私たちはプロですから、当然そこまで頭に置いて、飼育をしているつもりです。でも時としてこれでいいのかな?と反省させられるときがあります。

当園のマルミミゾウは、来園時からずっと軟便でした。多分この個体は胃腸が弱い個体なんだろう、だから栄養価の高い餌を与えなければ、と考えていました。ところがある人から「アフリカゾウ（マルミミゾウも含む）は栄養価の低い餌を与えなければいけない、日本ではアフリカゾウもアジアゾウも同じ餌で飼育するから軟便で、足が細くて肌に張りのないアフリカゾウが多い。」という話を聞きました。確かに冬場、乾草を主に与えると糞が固くなることは知っていました。

アフリカゾウはサバンナで主に栄養価が低く水分の少ない草を大量に食べ、アジアゾウは森林で栄養価の高い草や木の葉を食べています。耳や頭の形が違うだけではないのです。

せいぜい30種類位の餌で120種以上の動物を飼育するのは、以外と難しいことです。同じサル仲間だから、同じゾウの仲間だからと簡単に考えると思わぬ落とし穴があったりします。常にこれでいいのかな?と考へながら飼育をするのが飼育係の大切な仕事です。

Vet.News —動物病院から—

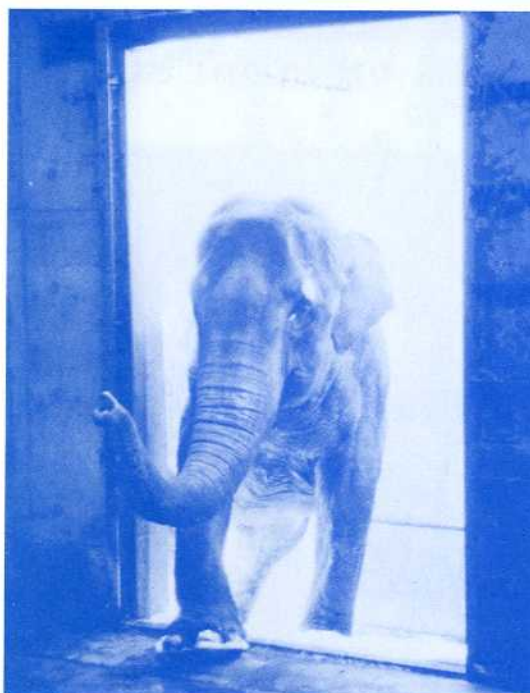


アサコの謎

春になって開園すると大勢の入園客でにぎわう動物園も、今はまだ雪におおわれひっそりとしている。動物たちもこの静かさを楽しんでいるかのように、のんびりとしていて、開園中とは違った顔を見せてくれる。南方系の動物も徐々に寒さにならしてやり、できるだけ放飼場に出してやるようにしている。日光浴をさせることと、運動をさせることでストレスが貯らないようにするためだ。ダチョウは雪の中を力いっぱい走り回り、ゾウは雪玉を作ったりしている。もちろん室内は暖房を通してあり、健康管理には気を配っている。

さてアジアゾウのアサコ、来園25年目、年齢は55才以上、動物園の古参株である。このアサコ、8年ほど前から閉園した10月下旬寒くなってから、4月初旬まで、放飼場に出すとなかなか室内に入ろうとしなくなった。ここ2~3年は特にひどくなってきた。開園期間中の出入りのリズムを守っているのか? よっぽど雪が好きなのか? もうおばあさんだし余り長時間外に出しておくのは心配だ。マルミミゾウのナナは扉を開けてやるとすぐに室内に入り餌を食べ始める。吹雪の日でも、日が沈んでしまう5時過ぎまで部屋に入らないのは幾らなんでもおかしい。それでもどうにか室内に収容出来ていたが、昨年11月とうとう一晩中部屋に入らない日があった。

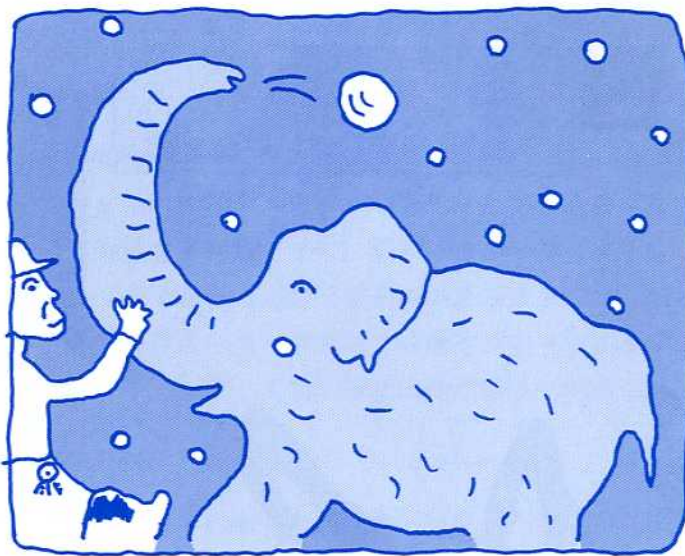
冬になると部屋に入りたくなくなるのには原因があるはずだ、と思いアサコをよく観察してみた。部屋にはいる扉を開けると、鼻を伸ばして出入口付近の床や壁をさぐり、空気を吸い込んで室内の空気の温度を確認するような動作をする。耳も室内の方に向けている。どうも暖房と関係があるようだ。暖房はスチーム暖房で、その配管がちょうど出入口のすぐそばの床の下を通っている。以前は床下30センチ位深く埋めてあったが、8年ほど前床下5センチ程に埋め直していた。配管の上の床を手で触って見たらかなり熱かった。アサコが放飼場から室内



に入るためには、一段階段を登らねばならず、そのため必ず配管の上を体重をかけて踏まなければならない。11月の下旬からアサコの部屋の暖房を止めてみた。すると10日後位から鼻で探るような動作もせず部屋にはいるようになった。寒い日など早く入れてくれと、扉を鼻で叩く事もあるくらいである。スチームが入ると床が熱くなり、暖房のパネルが温まりカーン、カーンという音がする。アサコはそれを探っていたのだ。

ゾウはとても神経質で記憶力がいい動物だ。閉園して暖房の整備点検が始まると、「足が熱い」という感覚が脳裏に浮かび、つらい思いをしていたのであろう。アサコの部屋は、隣のキリンやマルミミゾウの部屋より少し気温が低くなってしまったが、健康を害するほどではない。

なぜ早く気が付かなかったのだろうか? 動物の身になって飼育をしなければ、と反省させられた。アサコに一言「ごめん」と謝った。





げんちゃんの 追球コーナー



小さな疑問から大きな疑問まで、『げんちゃんの追球コーナー』へどんどんお送り下さい。採用させていただいた方には、旭山動物園特製「エゾシカの角のキーホルダー」をプレゼントいたします。

Q

ウサギの目の色はみんな赤色とは限らないのはなぜ？

旭川市 小室 俊輔君

A

ペットショップで売っているウサギは、カイウサギといって、元々はアナウサギという野生のウサギを家畜化してできた品種です。愛玩用ばかりでなく、食用肉、毛皮用、実験動物用とたくさんの品種があります。野生のアナウサギは毛は茶色で目は黒い色をしています。ところが突然変異で毛の長いもの、毛色が黒色、灰色や白色などのものが産まれます。これらの変異個体を意図的に選び出し交配を繰り返して、たくさんの品種が作られました。この中で白い個体はアルビノ（白化）といって皮膚や毛、目の色素が無くなってしまったものです。目が赤いのは、色素がないために血液の色が透けて見えているためです。アルビノにも程度があって、毛は白いけど目は黒いものや、一部分の毛だけが白くなるもの、体全体の毛色が薄くなるものまでさまざまです。

野生の動物でもこのアルビノは産まれます。白蛇や白いカラス、ホワイトタイガーなどはテレビで見たことがあるでしょう。野生の状態ではこれらの個体は、目だちすぎるために捕食されたり、仲間から敬遠されたりして、長生きできないことがほとんどです。もちろん人間にもあります。

ウサギは白くて赤い目をしているのが普通だ、と思っているみただけけれど、それは人間が意図的に作ったもので、本当は茶色で、黒い目をしているのが普通なんです。



クイズ

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製「エゾシカのキーホルダー」が当たります。

応募方法 ハガキに答えと住所、氏名、年齢、電話番号を書いて旭山動物園モユク・カムイ係までお送りください。

応募×切 1993年2月28日

前号のこたえ

正解はシロテナガザルでした。《正解率100%》半分以上の人が白テナガザルと書いてきました。シロテ（白手）テナガザルが本当の正解です。

キーホルダー当選者

旭川市 酒井 郁子さん
旭川市 小川 友昭くん
旭川市 奥野 富美江さん

カピバラとタヌキみたいな飼育係のおじさん、どちらが重いでしょう？



飼育日誌 《平成4.10.21～平成5.1.22》

- 10.22 水禽類 越冬舎へ収容
ZOOガイド「旭川市立東陽中学校」
- 10.23 ホッキョクグマ出産
- 10.24 シロテナガザル（くろべえ）右手外傷
- 10.27 ユキヒョウ（ゴルビー）跛行、X線・血液検査
- 10.30 シロテナガザル（くろべえ）再手術
- 11. 4 エゾシカ・ワビチ異動
- 11.12 アミメキリン・ワビチ・クジャクバト異動
- 11.17 ユキヒョウ・オオヤマネコ駆虫
- 12. 5 ワビチ角切り
ハシジロアビ保護（骨折）
- 12.12 ZOOガイド「江丹別公民館」
- 12.28 アリゲーター・リクガメ新居へ異動
- 1. 8 チンパンジー下痢 ～1.13
ヤマアラシ死亡
- 1.14 ZOOガイド「市消防訓練所」
- 1.15 第140回飼育研究会
第5回種保存委員会拡大会議報告・小菅
- 1.16 ZOOガイド「旭川市立陵雲小学校5年PTA」
- 1.17 ZOOガイド「教育大学附属旭川中学校」
- 1.18 オオワシ爪切り（麻酔下）



飼育動物数

（2月1日現在）

哺乳類	40種	142点
鳥類	90種	429点
爬虫類	8種	26点
合計	138種	594点



お知らせ

◎冬の動物園観察会

今年も冬の動物たちの暮らしを見ていただくとうと、3回の観察会を実施致します。最終回は2月28日に予定しておりますが、まだ若干の余裕がありますので、参加ご希望の方は往復ハガキに「住所・氏名・参加者数・電話番号」を書いて旭川市旭山動物園までお申し込み下さい。

◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として120円切手を4枚同封して、旭川市旭山動物園モユクカムイ係までお申し込みください。

◎開園日

今年の開園日は4月29日です。動物たちも元気にその日を待っております。よいお天気になることを祈っております。

編集後記

ずいぶん雪の少ない新年の幕開けでしたが、ご挨拶が遅くなりまして誠に申し訳ございません。本年も宜しくお願いいたします。

悪性の風邪が蔓延しておるようで、園長を始め動物園の職員もゴホゴホとどこへ行っても咳の聞こえない所はありません。心配なのがサルたちです。飼育係のインフルエンザが免疫のないサルたちに感染し、大変な目にあった年のことを思い出してしまいます。チンパンジーがちょっと風邪の症状を見せたのですが、早めの処置で事なきを得ています。K氏も早く風邪をなおしてくれないと交尾期を迎えたサル山が心配です。風邪は万病のもとと言われております。皆様もご油断なさりませぬように。

昨年産まれたカバの赤ちゃん、「何を食べてこんなに大きくなるの」と不思議なくらい大きくなりました。開園日にはきっとびっくりしてしまいますよ。



モユク・カムイ No.31 平成5年3月6日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
発行人 菅野 浩 編集委員 小菅 正夫・阿部 寛・坂東 元
印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653